

# 「語いもんそ」

Vol. 9 平成 21 年 2 月 13 日発行

この通信誌は、宝山ホールで活動されているボランティアスタッフによって発行されています。

かごしま子どもミュージカル

## 「この花咲くや姫」

12月27日(土)昼夜2回公演



物語は日本神話をモチーフに、宝山ホールオリジナルの子どもミュージカルで、「相互理解と協力」「献身の愛」がテーマになっています。たとえわずかな親切でも他人のことを考え、そのために自分に何ができるかを考える心。そして出会い・勇気・平和と愛・夢と希望を私たちに感じさせた、すばらしいミュージカルになりました。

薩摩の国の恐れ島と言われる山が、黒い煙と真っ赤な炎を上げ、人々の思いやりや誠実、信じる心を遮っているのを見た天上界の神アマテラスは、荒ぶる神を鎮めるとともに、地上に平和と調和、愛と優しさの尊さを伝え、光あふれる国創りのために、孫のニニギを薩摩の国に派遣しますが、考えの違いから、薩摩の神々の長オオヤマツミは、天上界の神々との戦争の準備をします。オオヤマツミの娘「サクヤ」は、天上界の真意を知り、戦争をやめさせようと決心し、物語が展開します。

### 公演を取材しました。

当日公演直前の最終リハーサル、緊張感がみなぎっていました。



天界軍と薩摩の神々の長オオヤマツミとの交渉は決裂し、オオヤマツミは国を守ろうと天界軍との戦争を決意します。



サクヤは、父神オオヤマツミを助けるため、従者とともに島々を回ります。



サクヤは、天界軍のニニギの話を聞き、父神オ

オヤマツミを説得して、戦争をやめさせようと決心します。



サクヤの「献身の愛」により薩摩の国に平和がもたらされ、恐れ島は桜咲く美しい桜島になります。



### 出演の子どもたちにインタビューしました。

アマテラス役の西之原三奈さんは、  
「天上界を支配する神アマテラスの役でしたので、全身から堂々とオーラを出す努力をしました」、「また稽古の前はしっかりウォーミングアップをして、稽古に入る雰囲気・ムード作りをして、中学生の私たちが、皆の手本になるようにしました」。

お母さんの美津枝さんは、  
「今回は、稽古の欠席者の代役係をしましたので、娘と一緒に参加し、お弁当も一緒に食べるなど思い出深い1年でした」。

「12月に父を亡くしましたが、娘と同じ目標・目的に向かっていくことができ寂しい思いをしなくてよかった」と今回の公演の成功を喜んでおられました。



向井実咲さん(写真左)は、ドリーム島のミラクル、

天界のアクアの二役をしました。

「稽古は楽しかった、二役は出演する場面も多いし場所の移動が大変でしたが、緊張することなく、しっかりでき、舞台は楽しかった」と充実感にあふれる笑顔で話してくれました。

久木田麗樹さん(写真右)は、ドリーム島のクローバー、天界のフラワーの二役をしました。

「二役は稽古で注意・指導を多く受け、それを克服していくのが大変だったし難しかった」、「舞台ではいつもより緊張しましたが、稽古どおりできたし、出演してよかった」と最高の笑顔で話してくれました。



有田乙羽さん(写真左)は、薩摩の光の神ヒカリ、大前弥理さん(写真右)は、炎の神ルージュの役。「戦争に行く準備をするときの気持ちを高め、国を守る役に取り組んだ。でも現実には戦争反対、平和への気持ちが強い、平和と愛の大切さを学びました」と二人仲良く語ってくれました。



### 出演者のご家族にインタビュー

公演前にお聞きしました。

酒匂弥生さん(薩摩の氷の神フラワー)の祖父母酒匂達男さんと、とみこさんは、  
とみこさん - 「孫は何でもやる気があるし、負けず嫌い、今日の舞台を楽しみにしていました」

達男さん - 「今までの稽古の成果を発揮して頑張りたい、今日が楽しみで桜島の自宅を朝早く出てきました」と開場1時間前には、宝山ホールにお越しいただきました。



**公演後にお聞きしました。**

大園真央さん（アブラ島のグリース）、三央さん（アブラ島のヒーター）姉妹のご家族。ご両親の大園義三さんと朝子さんは、「良かった感動しました、稽古の内容は聞いていましたが予想以上でプロみたいだった」。「子どもの成長した姿を舞台で見ることができた、すばらしい一言で、感激の涙が出ました」と、公演に携わった方々に心から感謝しますと関係者へのお礼の言葉がありました。姉妹のお祖父様とお祖母様は、公演の感想を「なんつあならん よかしたなあ、涙が出てきた」と話され、お孫さんの舞台に身内も全員集まり、いい1日だったと、とても仲の良いご家族でした。



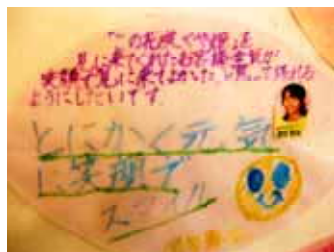
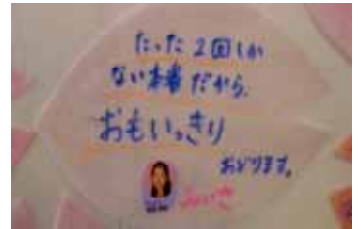
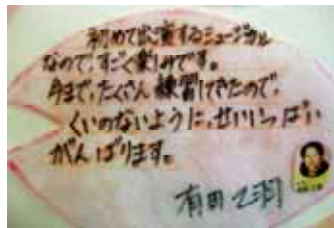
鹿児島県知事、鹿児島市長様から公演へのお祝いと励ましのお言葉をいただきました。



出演する子どもたちからお客様へのメッセージボード。



一部をご紹介します（子どもたちの自筆です）



舞台終了後は、出演者全員でお客様にお礼の言葉を添えてお見送りしました。



鹿児島市紫原の久保田さんは、「県内の小中学生が出演するオリジナルミュージカルと知り、娘二人と来ました。小さな子どもたちの一生懸命の演技とストーリーの展開に思わ

ず涙ぐんでしまいました、練習はとても大変だったと思います、でも親も子も成長したのではないのでしょうか。このような機会があったら是非わが子も参加させたいと思います。幸せなひと時をありがとうございました」と感想を話して下さいました。

公募で集まった、鹿児島県の小中学生 100 人が、演技・歌へのとまどい、迷い、悩みもあったと思いますが、途中で脱落する者は一人もなく、それぞれが自分の役をしっかりと演じ、本格的な衣装・舞台装置、そして子どもたちの感情豊かな歌やせりふと演技で、ご来場された 2500 名のお客様を魅了しました。

(撮影・取材記事 広報ボランティア 四十住 孝行)

子どもミュージカルに出演した、八木詩穂香・沙悠さん姉妹のお母さんは舞台衣装の製作に携わり、親子でこの 1 年を「この花咲くや姫」に關りました、また友人が出演するからと遠方より公演を観にきた幼馴染みの方、山口県から孫の舞台を観にきた方等、多くの方々が今回の公演を通してさまざまな出会いがあり、それぞれの人々にすばらしい感動があった公演になりました。

(記事 広報ボランティア 弓削眞智子)

## 宝山プレゼンツ

# シネマ クラシックコンサート

平成 21 年 2 月 1 日(日)



司会とトークは放送キャスターの横山欣司さんで、映画の中で流れたクラシックの名曲の解説と、どの場面で流れたか説明もあり、映画のワンシーンを思い描きながら聴くことができ、1000 人を越すお客様も大満足のコンサートになりました。



鹿児島市内から、四家族でお見えになった仲良しグループの方にお聞きしました。

「学校でも頑張っている学級担任の先生が出演すると聞き、同級生の子どもたちが普段とは違う先生が見たいというので来ました、先生はカッコ良かったし子どもたちも満足の様子でした。演奏は曲の構成も良く、横山さんの的確な解説もありましたので、楽しく聴くことができました」と感想を話して下さいました。



この日だけの特別展示会もありました。

戦後の映画全盛期から天文館で約 30 年映画看板を描いて来られた、梶井凱弘さんの作品が展示されました。手描きならではの雰囲気往年の映画ファンにはコンサートとともに最高のプレゼントになりました。作品の一部をご紹介します。



(撮影・取材記事 広報ボランティア 四十住 孝行)

宝山ホール広報ボランティア通信誌

「語りもんそ」編集部

〒892-0816 鹿児島市山下町 5-3 宝山ホール

TEL099-223-4221 FAX099-223-2503